

いわぎんレポート

岩手銀行中間期ディスクロージャー誌
[情報編]

2019

The Bank of Iwate, Ltd.
Report 2019



ご自由にお持ち帰りください

事業性理解

高田支店 × 株式会社高田松原

震災復興

水沢支店 × 株式会社水沢米菓



信頼の、さらにその先へ。

CONTENTS

ごあいさつ……………1
 事業性理解……………3
 震災復興……………5
 キャッシュレスの取り組み……………7
 いわぎんグループSDGs宣言……………8
 業績トピックス……………9

銀行法施行規則等で規定された開示項目は、後日発行いたします「いわぎんレポート2019(資料編)」をご参照ください。

ごあいさつ

平素より、岩手銀行をご利用、お引き立ていただき、誠にありがとうございます。

この度、当行に対するご理解を一層深めていただくため、「いわぎんレポート」を作成いたしました。本誌では、地域社会の活性化に向けた当行の取り組みや現況などをよりわかりやすくご紹介しております。ご高覧のうえ、当行をさらにご理解いただければ幸いに存じます。

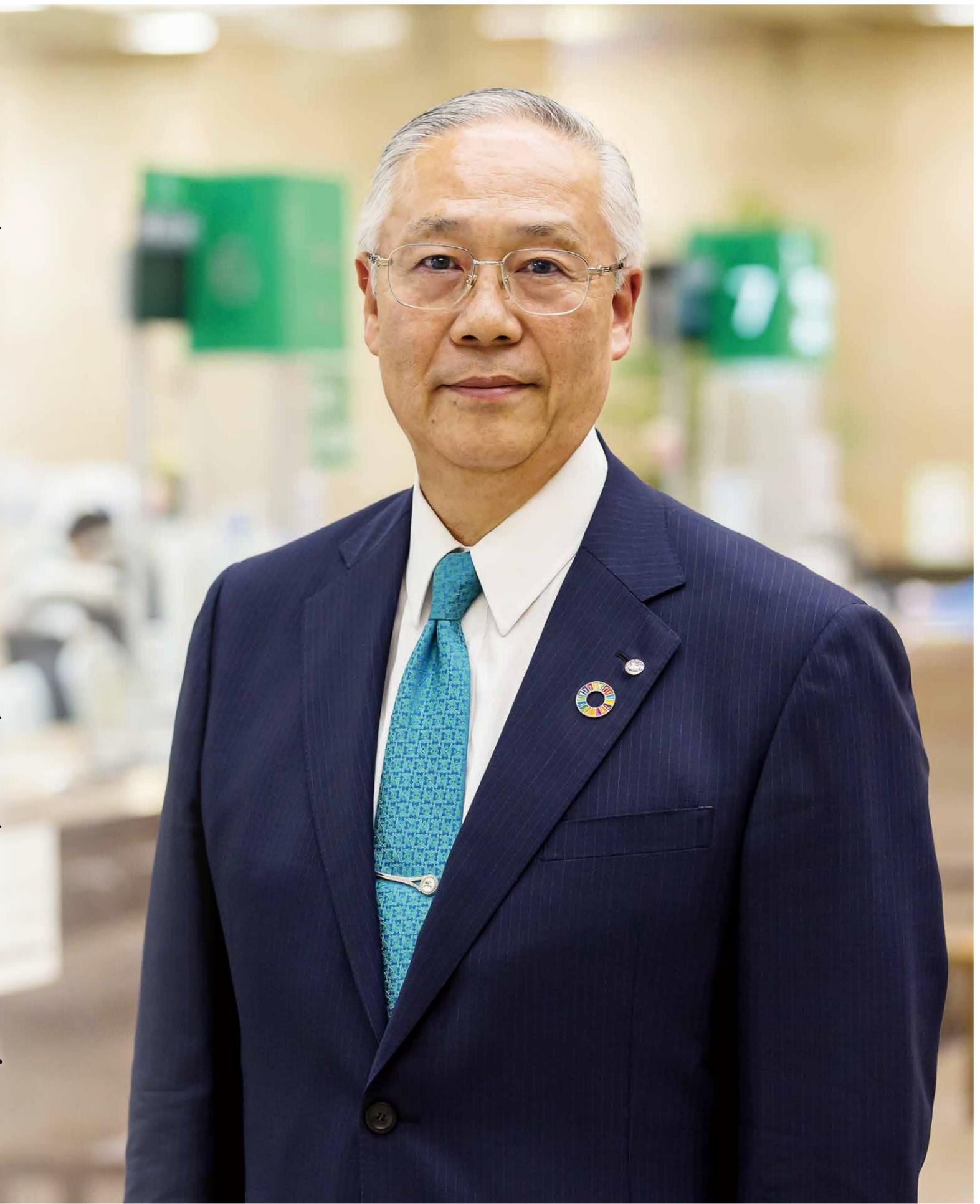
さて、地域経済は個人消費に持ち直しの動きが見られ、有効求人倍率が高水準で推移するなど、全体的に緩やかな回復の動きが継続していますが、公共投資や住宅投資は弱含みの動きを見せているほか、中長期的には、地域の人口減少や後継者不足などの地域経済の縮小が懸念されています。当行を取巻く環境としても、日銀によるマイナス金利政策の継続や異業種との競合など、先行きの不透明感が増えています。

このような状況に対峙し、営業基盤である地域との共存共栄を実現するため、当行では2019年4月より新たな中期経営計画「いわぎんフロンティアプラン～To the Next～」をスタートさせております。本計画では「地域の未来を共に創るCSVの実践」をテーマに、地域が抱えるさまざまな課題に正面から向き合いその解決に取り組んでいくことで、地域と当行にとっての共通価値を創造し、共に成長していくことを目指します。

当行のコーポレートメッセージである「信頼の、さらにその先へ。」は、お客さまに当行を「信じて頼って」いただき、さらにそれ以上の強い信頼関係を築くことを目指していくという決意を示しています。今後とも地域のみなさまに「信頼」され選ばれる銀行であるよう、役職員一同全力を尽くしてまいりますので、一層のご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役頭取

田口幸雄



事業性理解

企業のことを
もっと知りたい

道の駅は地域のシンボル。 想いを共有し共に歩みます。



「事業性理解」とは

企業の現状および課題を認識・分析し、事業の内容や成長可能性を評価したうえで企業価値向上への様々な支援を行うことです。事業性理解を通じて、企業の集積体である地域経済・産業の底上げを図ることで、当行も持続的な収益を確保するというビジネスモデルの実現を目指します。

※当行ではお取引先との密接な関係をイメージしやすくするため、事業性評価の呼称を「事業性理解」としています。



伝承館や追悼祈念施設の見学を終えた人たちが復活を待ちわびた多くの市民が訪れ、平日も賑わう道の駅高田松原。奇跡の一本松へも歩いていくことができる。



株式会社高田松原
代表取締役社長／道の駅高田松原駅長
くまがい まさふみ
熊谷 正文さん



岩手銀行高田支店
支店長
えんどう こうじ
遠藤 公治



岩手銀行高田支店
融資・渉外グループ
しよま たくろう
沼倉 拓郎

東日本大震災で全壊した「道の駅高田松原」が高田松原津波復興祈念公園内に再建され、9月にオープン。岩手銀行は道の駅の管理業務を行う株式会社高田松原の支援を通じて、街の賑わい創出のお手伝いをしています。

市民の想いを受けて

美術館のような外観が印象的な道の駅高田松原。中に入ると、岩手県産の木材をふんだんに使った、木のぬくもりが感じられる造りです。「食と防災」をコンセプトに、地元の海の幸、野菜や果物などの販売、飲食店2店舗による食事の提供のほか、防災グッズの販売も行っています。また、鳥取県で人気のカフェ「すなば珈琲高田松原店」も。震災をきっかけにできた縁で、中国地方以外では初の出店となりました。

道の駅を運営する株式会社高田松原の設立は、昨年11月。岩手銀行は設立当初から、資金面のほか、道の駅に導入されるシステムなどについてもコンサルティングを行い、様々な角度から支援してきました。岩手銀行のグループ会社との連携で、クレジットカードなどキャッシュレス決済への対応もサポートしました。「会社設立にあたり、どのようなご支援ができるのかということに加え、会社全体の運営がうまくいくためにはどうしたらいいかというご提案もしながら、お話を進めてきました」と高田支店の沼倉拓郎行員。その背景にあるのは、道の駅の復活を待ちわびていた、市民の気持ちです。市民の強い想いを感じていた遠藤公治支店長は「陸前高田に勤務しているからこそ、このような仕事に携わることができる。直接の担当者だけでなく、支店全体で一生懸命やっという」と行員に話したといいます。

「しっかりしているという安心感から、いわぎんさんのお世話になることにしました」と話す熊谷正文社長は日々、岩手銀行との密接なつながりを感じるとのこと。「毎日の売上を預けたり、両替をお願いしたり。従業員がいわぎんさんから帰ってくると、『こういう話をしました』など、様々な報告を受けますよ」と笑顔を見せます。陸前高田の復興のシンボルのひとつである道の駅を、岩手銀行をはじめ、地域全体で盛り上げていこうとする心意気を感じるのだそうです。

支店一丸でサポート

道の駅高田松原は、隣接する東日本大震災津波伝承館および追悼祈念施設と一体で構成されていることから、伝承館などを見学後、買い物に立ち寄る観光客も少なくありません。熊谷社長は「陸前高田にある道の駅として、何を伝えるのか。日々の防災を意識してほしいと考え、道の駅には珍しい防災グッズも取り扱っているのです」と話します。同時に、「今後は食を含めた冬の魅力も発信していきたいですね」と、意欲を見せています。

新たな出発を喜びながら、「経営に関することはもちろんですが、オープンから1年、2年と経過することで見えてくる課題についても綿密な情報交換のもとにサポートし、従業員の皆さんが全力でお客さまに向き合っていけるような環境づくりをお手伝いしたいです」と沼倉行員。その言葉を受けて遠藤支店長は「悩みが出てきたら、最初に相談していただける銀行でありたい。支店一丸となって、一緒に歩んでいければと思います」と意気込みます。長いお付き合いは、これからです。

震災
復興

復興から、さらにその先へ。
可能性を全力で応援しています。



株式会社水沢米菓 代表取締役社長 佐藤 庄一さん

こういう時代だからこそ、アイデアを出しながら取り組んでいかないと。今も新しいことを考えていますので、様々なことでお手伝いしていただけたらありがたいですね。



専務取締役 佐藤 文江さん

いわぎんさんのサポートを受けて現場を見直すなど、だいぶ変わってきました。とはいえ、忘れることもある。そんなとき、ポンと背中を押してもらえかなと、頼りにしています。



常務取締役 佐藤 貴之さん

自社の商品は、売上全体の1割程度。業績を上げるためにも「せんや」としての商品を伸ばしていくつもりなので、いわぎんさんには変わらぬサポートをお願いします。

奥州市胆沢の株式会社水沢米菓は、せんべいを生地作りから一貫生産する会社。県内では「せんや」の名前で知られます。また、県外の菓子メーカーに生地を提供するなど、高い技術力を誇ってきました。

ところが、東日本大震災で工場の床には亀裂が走り、機械が設置位置からずれるなど、生産が困難に。佐藤貴之常務は「1週間以上、工場を休みました。その後、製造はできたものの、機械を無理やり動かしている状態。また、原発の風評被害で、注文がキャンセルされ、関西への販路が失われたことも痛手となりました」と、当時を振り返ります。

「流通も止まりましたしね。それでも、従業員にお給料を払わなければいけない。常務と一緒に商品を持って、京都や東京の百貨店などに出向いて売りました」と佐藤文江専務。努力を重ねましたが、卸しの売り上げは大きく落ちたといいます。

そうした時期に、メインバンクとして

約30年にわたる取引があった岩手銀行に相談。被災事業者への支援制度に関するアドバイスを受けて2013年5月、工場の床などの修繕を行いました。「震災前の債権を一定期間、棚上げして返済を止める、いわゆる二重ローン対策をお手伝いし、修繕資金の支援もさせていただきました」と、法人戦略部コンサル営業推進チームの齋藤克宏行員。困難を乗り越えた会社を後押ししようと「ここからが水沢米菓さんのスタート。本部と連携し支援していきます」と水沢支店の伊藤崇浩行員が応えます。

一連のサポートについて佐藤庄一社長は「アドバイスをいただきながら、作業効率の改善などに努めています」と信頼を寄せます。文江専務は「工場にいることの多い私たちには入ってこない情報をいただけるのありがたい」と話します。今後は、社長から常務への事業継承にともなうお手伝いも見据えながら、岩手銀行はお取引先の未来を築く支援を続けていきます。



岩手銀行法人戦略部
コンサル営業推進チーム
さいとう かつひろ
齋藤 克宏

震災後の大変な状況を乗り切ってきた水沢米菓さんですので、今後どんな課題も乗り越えていけると期待しています。引き続き私たちも当社をサポートする存在でありたいです。



岩手銀行水沢支店
融資・渉外グループ
いとう たかひろ
伊藤 崇浩

商品が高く評価され、県外の会社からの引き合いが多いのも、水沢米菓さんの強み。支店としては情報提供など、金融支援以外でも支えています。



奥州市胆沢に工場を構える水沢米菓。商品の約9割は県内外に卸している。主に県産米を使用する商品は取引先から高い評価を得ている。工場には歴史を感じさせる様々な形状の型も保管されている。

▶ 地震リスク対策にこんな商品も…

震災時元本免除特約付き融資「バックアップ・プラン」

予め定めた震度観測点において、震度6強以上の大規模地震が発生した場合に、予め定めた割合(100%または50%)で当該融資の借入元本が免除される特約付きの融資商品



震度6強以上の大規模地震発生



借入元本を免除
(50%または100%)

過去に発生した大規模地震では、建物・設備への直接被害だけでなく、サプライチェーンの分断(部品の調達ストップによる生産停止等)による間接的な損害などにより、お取引先が大きな影響を受けました。

岩手銀行では、災害時の早期復旧を財務面から支援するため同商品を創設し、お取引先企業の大規模地震リスク対策や事業継続計画(BCP)策定にご活用いただいています。

いわぎんのキャッシュレスの取組み

～「キャッシュレス・消費者還元事業」について～

2019年10月1日より、「キャッシュレス・消費者還元事業」が始まりました。消費税率の引き上げに伴って実施されている事業ですが、当行ではお客さまの「キャッシュレス」をお手伝いするサービスを提供しています。

「キャッシュレス・消費者還元事業」とは？

詳しくは経済産業省HP(<https://cashless.go.jp>)でご確認ください。

事業の概要

10月1日からの消費税率引上げに伴い、需要平準化対策として実施される事業です。本事業に事前に登録した中小・小規模事業者の運営する店舗（対象店舗）で、対象となる決済手段を利用して代金を支払うと、最大で5%のポイント還元が受けられます。



キャッシュレス決済事業者

対象の中小店舗

※決済事業者と店舗が契約。店舗は決済事業者に決済手数料、決済情報を提供
※図は、キャッシュレス端末代、決済手数料を補助、還元原資を支援

実施期間

2019年10月1日～
2020年6月30日までの9か月間

対象となる決済手段

クレジットカード、デビットカード、電子マネー、QRコードなどのキャッシュレス決済

当行のクレジットカード「IbeOne」やデビットカード「SakuSaku!」も対象となります！

いわぎん Debit Card

sakuSaku!



▶使ったその場で引き落とし！

ショッピング利用時に利用代金が原則即時に口座から引落しになります。口座残高の範囲のため、クレジットカードに比べて使いすぎの心配がありません。

▶キャッシュバックの特典つき！

ショッピング利用金額の0.1%分が口座に自動でキャッシュバックされるので、現金よりおトクに利用できます。

※「キャッシュレス・消費者還元事業」によるポイント還元とは異なります。

▶いろいろなお店で利用できる！

VISAカードが使えるお店であれば、近所のコンビニやスーパーなど国内のお店はもちろん、世界中で利用できます。ヤフーショッピングやAmazonなどのインターネットショッピングにも利用できます。

▶15歳から申込可能！

クレジットカードと異なり借入ではないため、15歳から審査なしで発行できます。お子さまが修学旅行で海外に行かれる時などでも多額の現金を持っていく必要がなくなります。



詳しくはお近くの岩手銀行窓口または岩手銀行ホームページでご確認ください。

事業主のお客さま

岩手銀行では、キャッシュレス決済サービスの導入を支援する取組みを行っています。



■クレジットカード決済を導入したい！

当行グループ会社 ・いわぎんディーシーカード ・いわぎんクレジットサービス がお手伝いします

[ご支援の一例] 決済端末の導入、機器操作のサポート など

■スマートフォン決済を導入したい！

専門事業者と連携してお手伝いします

[ご支援の一例] Alipay(アリペイ)・Origami Payなど、QRコードによる決済方法導入の橋渡し など

持続可能な地域社会の実現を目指して

いわぎんグループ SDGs宣言

SDGsとは？「Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標」の略称で、2015年9月の国連サミットにおいて全会一致で採択された国際社会全体で取り組むべき目標です。2030年を目標年として、国際社会共通の17のゴール（目標）とゴールごとに設定された169のターゲット（個別目標）から構成されています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



岩手銀行は、持続可能な社会の実現のため国際社会全体で取り組むべき目標であるSDGsの趣旨に賛同し、その達成に一層貢献していくことを目的として、「いわぎんグループSDGs宣言」を策定しました。

いわぎんグループSDGs宣言

いわぎんグループは、経営理念である「地域社会の発展に貢献する」「健全経営に徹する」のもと、持続可能な地域社会の実現に向けて、地域が抱える社会問題や環境問題の解決に積極的に取り組み、国連において採択されたSDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献してまいります。

重点テーマ

豊かなくらし

様々な金融サービスや商品などの提供を通じて地域社会が抱える課題を解決することで、持続可能な地域社会の実現に貢献します。



《いわぎん「みらい応援私募債」(寄付型CSR私募債)》
お取引先企業が私募債を発行する際に、当行が受取る私募債発行手数料の一部を寄付金として拠出し、お取引先が指定する学校等に対して必要な物品等の寄贈を行っています。

豊かなしぜん

地域資源を活用した再生可能エネルギー普及に向けた取り組みや自然保護活動などを通じて、地域の豊かな自然環境の維持・向上に貢献します。



《自然保護活動》
二戸市とのパートナー協定に基づき、市有地約1,000坪を「いわぎん漆の郷」として、地元の中学生と漆の植栽活動を行っています。

豊かなこころ

金融教育活動や文化・スポーツ振興への取組みを通じて、未来を担う若い世代の「こころ」を育むとともに、地域の皆さまの金融リテラシーの向上に貢献します。



《文化事業への協賛》
文化協賛事業「いわぎんスペシャル」として、演劇・コンサート等に協賛しています。

ガバナンス

自らの経営の透明性の向上に努めるとともに、職員一人ひとりが働きがいを感じて活躍する職場づくりに取り組みます。



《女性の活躍推進》
育休者支援セミナーを開催し、職場復帰に向けたサポートを行っています。

岩手銀行のSDGsに関する取組みは、「いわぎんSDGsレポート」や当行ホームページで紹介しています。

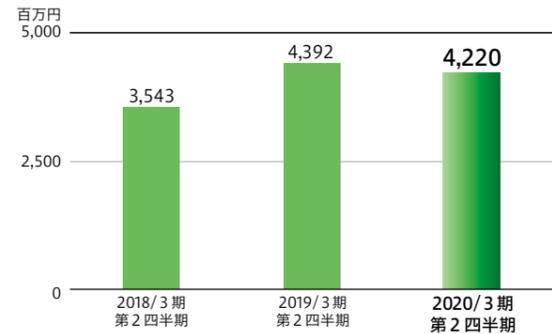
業績トピックス

●諸計数は原則として単位未満を切り捨てております。●構成比は100に調整しております。

主要な指標の推移

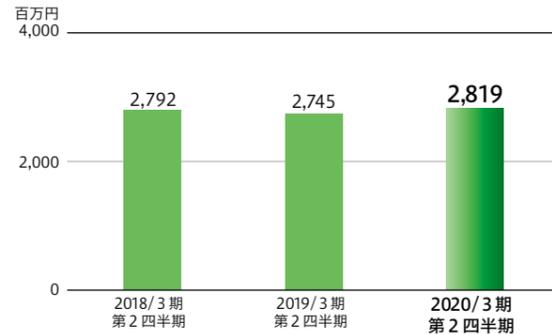
コア業務純益

コア業務純益は、経費が減少したものの、資金利益の減少等により、前年同期比1億円減益の42億円となりました。



中間純利益

中間純利益は、資金利益や有価証券関係損益が減少したものの、経費や与信費用が減少したことなどから、前年同期比0.7億円増益の28億円となりました。



預金等残高

公金預金や個人預金が増加したことなどにより、前年同期比542億円増加し、期末残高は3兆820億円となりました。



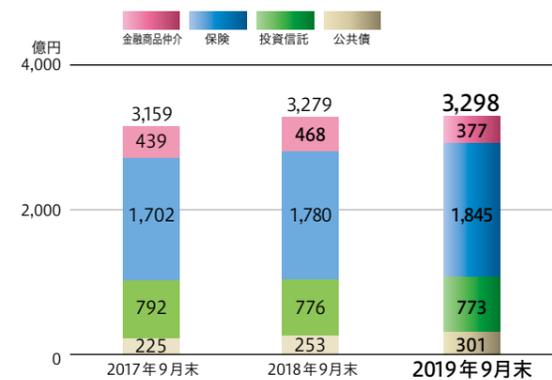
貸出金残高

法人向け貸出や個人向け貸出が増加したことなどにより、前年同期比286億円増加し、期末残高は1兆7,942億円となりました。



預り資産残高

保険の増加などにより前年同期比19億円増加し、期末残高は3,298億円となりました。



※保険は、有効契約残高を記載しております。

用語のご説明

自己資本比率

信用の程度に応じてウェイト付けした資産および事務事故、システム障害等で損失が発生する可能性のある金額の合計(リスクアセット)に対する自己資本の割合です。この比率が高いほど不良債権処理等に対する備えが充実していることを示し、当行のような国内支店のみの銀行は4%以上を維持する必要があります。

「地域」の定義

当行にとっての「地域」とは、当行の主要な営業基盤である「岩手県」を指しています。なお、県内向け預貸金等各種記載計数につきましては、岩手県内各店舗の合計数値としています。

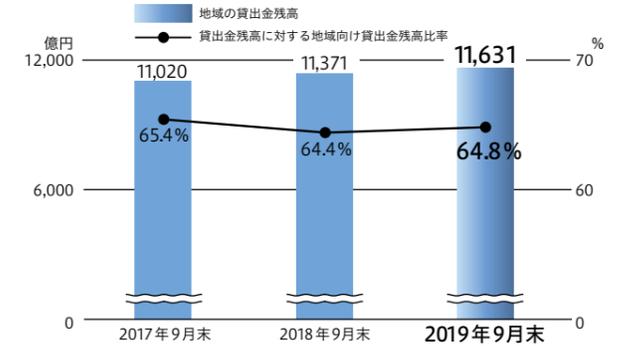
地域の預金等残高の推移

2019年9月末の地域の預金等残高は2兆8,537億円で、預金等全体の9割以上を地域のお客さまからお預かりしています。



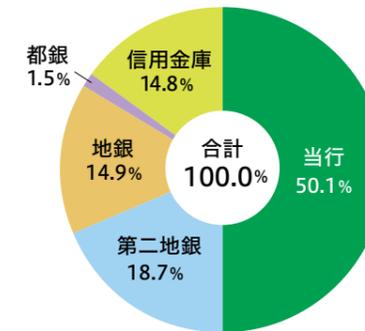
地域向け貸出金残高の推移

2019年9月末の地域向け貸出金残高は1兆1,631億円で、総貸出金に占める割合は64.8%となっています。



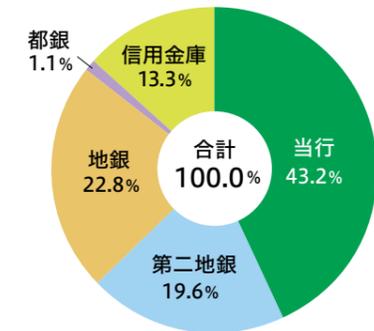
県内預金等シェア

2019年3月中平均残高ベース



県内貸出金シェア

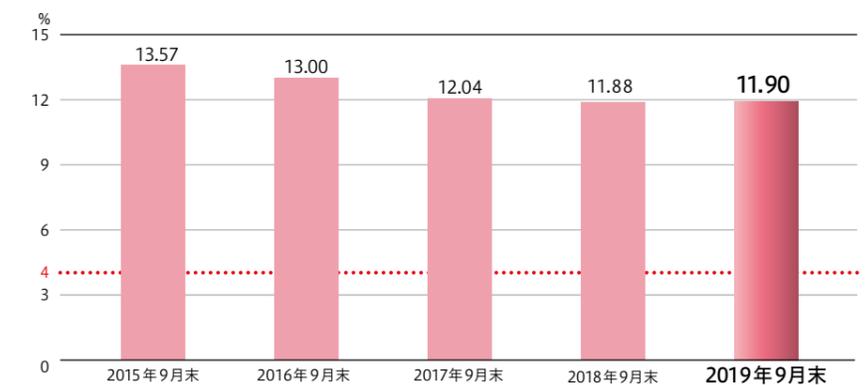
2019年3月中平均残高ベース



岩手県内における当行の預金等・貸出金シェアは、県内の地銀、第二地銀、都銀、信用金庫のなかでトップとなっています。(注)県内シェアは、国内銀行(ゆうちょ銀行を除く)および信用金庫による割合です。

自己資本比率

2019年9月末の単体自己資本比率は、11.90%となり、引き続き高い水準を維持しています。



格付け

「格付け」とは、企業の債務履行能力を第三者である格付機関が客観的に評価し、その結果を簡単な記号で表したものです。当行は国内の格付機関から「格付け」を取得していますが、安全性を高く評価されています。

A- (株)格付投資情報センター)



地域とともに。

みどりの銀行のイーハトーヴ宣言!

地域のみなさまの心の中には、それぞれ思い描く「理想のいわて・東北」があると思います。私たちは、現実の「岩手・東北」のなかでその理想が少しでも形を成すことができるよう行動していきたいと考えています。コーポレートカラーが「みどり」の岩手銀行が掲げた「みどりの銀行のイーハトーヴ宣言」には、そうした決意が込められています。

今後も、地域のみなさまとの積極的なコミュニケーションを通じて地域社会の永続的発展に貢献し、地域のみなさまが思い描く「理想のいわて・東北」が現実のものとなるよう日々努力してまいりますので、一層のご愛顧をよろしくお願い申し上げます。

2019年12月発行

株式会社 **岩手銀行** 総合企画部 広報CSR室

〒020-8688 盛岡市中央通一丁目2番3号

TEL 019-623-1111 (代表)

<https://www.iwatebank.co.jp/>

